

貯穀用除虫菊剤

マルカPGP

粉剤

“天然除虫菊剤”で、貯穀害虫をノックアウト！

穀物倉庫の防虫には“マルカPGP”を！



コクゾウ等の貯穀害虫の防除剤として、昔から除虫菊の有効成分ピレトリンを主成分にした『PGP』が広く使われてきました。ここ数年原料輸出国（ケニアなど）の事情等で製造されていませんでしたが、このたび原料輸入が再開され“マルカPGP”として、当社が製造販売することになりました。



除虫菊

〔和名 シロバナムシヨケギク
キク科の多年草・英名はPyrethrum〕

PGPは天然物を有効成分としてもつ薬剤です！

「PGP」は除虫菊の有効成分ピレトリンが殺虫剤として効きます。これは昆虫や魚類には毒性を示しますが、人などの哺乳類には安心・安全です。したがって、米麦の保管倉庫においても、安心してお使いいただけます。

ピペロニルブトキサイドが使用されているため、有機栽培米の保管倉庫では使用できませんので、ご注意ください。

害虫が発生する前に散布し、侵入加害の防止を！

被害を受けてからでは、遅すぎます。害虫が発生する前に散布し、害虫の侵入加害を防止してください。

成分

ピレトリン（有効成分）	0.080%
ピペロニルブトキサイド（効力増強剤）	1.20%
鉱物質微粉等	98.72%

効力試験

シャーレの底面にろ紙を敷き、所定量のPGPを均一に散布して、各種の貯穀害虫の成虫を25頭ずつ放ち、24時間後の致死率（対無処理補正致死率）を調査。

処理量 g/3.3m ² (1坪)	補正致死率 (%)		
	コクゾウ	コクヌスト	アズキゾウムシ
0.16	0	0	35.0
0.32	40.0	0	82.5
0.64	85.0	8.5	95.0
1.28	100.0	42.5	100.0
2.56	100.0	100.0	100.0
5.12	100.0	100.0	100.0

※本剤が穀類に混入しないように注意してください。その他使用上の注意をよく読んでお使いください。

使用方法

マルカPGPは屋内専用です。倉庫の床、台木、コーナー、出入口等の表面積3.3m²（1坪）当たり10～15gを十分被覆されるように散布してください。

適用害虫名

コクゾウ・ナガシクイ・コクヌストモドキ等の甲虫類、ノシメコクガ・バクガ等の蛾類、マメゾウムシ等

包装

1kg×20袋 ダンボールケース入り

Iwatani Group

製造元 国際衛生株式会社

本社 〒103-0023
東京都中央区日本橋本町4丁目14番7号
TEL (03) 3667-6711
FAX (03) 3667-6822

“環境に優しい”

貯穀用除虫菊剤：“マルカPGP”

特徴

1. PGPは天然除虫菊を主成分とし、コクゾウなどの貯穀害虫によく効きます。加熱しない限り、成分はガス化しないので用法用量を遵守し、使用する限り、作業員への影響はありません。
2. 倉庫内の害虫が、侵入・生息しやすい場所に散布するだけの、使いやすい薬剤です。
***粉剤を穀物に混入して使用しないで下さい。**
3. 米麦などの穀物に薬害を与えず、害虫には速効性を示します。

<保管・取扱い上の注意>

- 薬剤の保管は、直射日光のあたる場所を避け、冷暗所に保管してください。
- 開封後は、使いきってください。
- 薬剤の有効期限は製造後3年です。

除虫菊とPGPの話

除虫菊は古くから殺虫効果があることが知られており、現在もケニアをはじめ世界各地で殺虫剤の原料として栽培されています。日本へは19世紀後半に輸入されて各地に普及し、やがて瀬戸内地方や北海道が主産地になり、乾花生産量も1940年には世界の首位を占めました。戦後はその天然殺虫成分であるピレトリン(Pyrethrin)に類似する合成ピレスロイドが次々と開発され、それらを主成分とする化学合成殺虫剤や化学合成農薬が普及したため、除虫菊の栽培は年々はなはだしく減り、現在では、尾道や因島などで観賞用としてみられるくらいで、産業としての栽培は終了しています。

除虫菊の殺虫成分は、花、とくに子房部に含まれており、乾花中に0.7~1.6%含まれています。その主成分である天然ピレトリンの殺虫性は香取り線香(現在は、ほとんど天然ピレトリンは使用されていない)でみられるように、人畜無害で、農作物に何ら薬害を与えず、優れた速効性を示します。

穀物倉庫等における天然除虫菊剤としてのPGPは、天然ピレトリンに共力剤ピペロニルブトキサイドを加用したPGP(Pyrenone Grain Protectant:PGPはこの3つの頭文字をとっています。直訳すれば「貯穀防虫剤」の意味でしょうか)が開発され、昭和30年に農薬登録を受け現在にいたっています。なお、このPGPの原料である天然除虫菊粉は、上記の事情から、ケニアから輸入しています。

(世界百科事典平凡社より一部引用)

マルカPGPの適用害虫

PGP粉剤の適用害虫は、コクゾウ・コクゾウ・コクガ類・コクヌストモドキ・マメゾウムシなどのほとんどの貯穀害虫に有効です。



コクゾウ

日本全土に分布し、米麦を中心に被害も最も大きい。成虫は、黒色で体長は3.5mm位で成虫は4~11月頃まで活動し、年3~5回発生し、150日位生存する。越冬は主として成虫で戸外で行う。幼虫でも穀粒内で越冬できる。普通の倉庫内では未産卵の雌雄1対の成虫が190日後で平均2065匹になり、1匹の幼虫は米1粒を完全に食いつくす。



ナガシクイ



バクガ



コクヌストモドキ



アズキゾウムシ



ノシメコクガ